

日本ユネスコ国内委員会科学小委員会
人間と生物圏(MAB)計画分科会 関係活動に関する報告
(令和6年6月～令和7年8月)

※所属・職名等は当時のものを記載しております。

1. ユネスコを中心とした国際的動向

第 36 回 MAB 計画国際調整理事会

令和6(2024)年7月1日～5日に、第 36 回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会がモロッコのアガディールで開催されました。我が国からは、MAB 計画分科会の渡邊綱男主査と文科部科学省(国際統括官付)の関係者が出席しました。

定期報告及びフォローアップ情報

国際諮問委員会の勧告に基づき、今次理事会会期中に開催されたビューロによる審議結果が報告されました。我が国からは、移行地域を含めた初めての日本のエコパークとして、綾エコパークの定期報告が審議され、承認されました。

新規エコパーク及び拡張／修正／名称変更エコパーク

国際諮問委員会の勧告に基づき、今次理事会会期中に開催されたビューロによる審議結果が報告されました。新たに 11 地域が認定され、合計で 136 か国の 759 地域となりました。なお、今回、我が国からの申請地域はありませんでした。

昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)への MAB の貢献

事務局から、生物多様性条約の会議及び COP16 のプロセス、GBF のモニタリング枠組みにおいて、MAB 計画及び世界 BR ネットワーク(WNBR)のレジリエンスを強化する取組等について報告がありました。多くの国から、本取組の重要性を強調する発言があり、我が国も事務局の取組を評価するとともに、BR において OECM(Other Effective area-based Conservation Measures、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)を含む GBF の目標3(30by30)への貢献を促進するための MAB 計画分科会の取組を紹介しました。

ユネスコエコパークの拡張申請及び定期報告の提出

令和6(2024)年9月に、MAB計画分科会での助言やユネスコ未来共創プラットフォーム事業のサポートを得て、志賀高原エコパークが拡張申請書を、只見エコパーク、南アルプスエコパークが10年毎の定期的検討に係る報告書をユネスコに提出しました。令和7(2025)年9月の第37回MAB計画国際調整理事会において審議予定です。

MAB計画戦略・行動計画

令和7(2025)年9月22日～27日に中国・杭州市にて開催予定の第5回生物圏保存地域(BR)世界会議及び第37回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会に向けて、新たなMAB計画戦略・行動計画の第1次ドラフトに関する加盟国協議が行われ、我が国としては日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会にて国内の意見を取りまとめて令和7(2025)年2月にユネスコへ提出しました。続いて、第2次ドラフトに対する加盟国協議が行われ、同8月にユネスコへ意見提出しました。9月の上記会議で審議・採択予定です。

※MAB 計画戦略・行動計画(2026-2035)第2次草案の構成

1. MAB 戦略
 1. 1. グローバルな背景
 1. 2. ユネスコ中期戦略(2022-2029)との関連性
 1. 3. MAB 計画と BR 世界ネットワーク(WNBR)の発展
 1. 4. ビジョン
 - 世代内および世代間の正義、社会的連帯と生態的連帯性の重視
 - 人類と自然界の関係の根本的な再考
 1. 5. ミッション
 1. 6. 目標
 - A: 多国間環境協定とSDGsの達成への貢献
 - B: MAB計画とWNBRの更なる発展(人的・財政資源を含む)とネットワークの卓越性(excellence)の強化
 - C: 持続可能な将来と2030年以降の合意・協定に向けて、自然との共生の推進のための調査研究の発展と知見の共有
2. MAB 計画と WNBR の行動ターゲット(2026-2035)
 2. 1. 目標 A の行動ターゲット(13 個)
 - 生物多様性枠組・SDGs への貢献、生態系保全のための具体的取組、気候変動への対応 等
 2. 2. 目標 B の行動ターゲット(13 個)
 - エコパーク数の拡大、データ収集、ユースを含むネットワークの発展・強化・交流促進、他のユネスコ登録サイトやプログラム等との連携、人的・財政資源の確保、能力開発 等
 2. 3. 目標 C の行動ターゲット(8 個)
 - 調査研究を通じた自然との共生の推進、幅広い層の参画、学習の場としての BR の活用、伝統的知識と科学の統合、教育・科学・文化の融合 等
3. モニタリングと評価

2. 国内を中心とした動向

MAB 計画分科会

第 56 回 MAB 計画分科会

日時: 令和7(2025)年7月 30 日～8 月 5 日(持ち回り審議)

議題:

1. ユネスコエコパークへの推薦にかかる国内公募について
2. ユネスコエコパークの定期報告について
3. 「MAB 計画と BR 世界ネットワークのための杭州戦略・行動計画(2026-2035)」の第二次草案について

ユネスコエコパークへの推薦にかかる国内公募

以下の文部科学省ウェブサイトにも公募情報を記載しています。申請を希望する自治体等は、以下に掲載している公募要領及び関係書類に則り、令和 7 年 10 月 31 日(金曜日)18 時までに日本ユネスコ国内委員会事務局に申請してください。

(詳細: 外部リンク https://www.mext.go.jp/unesco/005/1358624_00004.htm)

ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

文部科学省委託事業(受託者: 日本自然保護協会、2024 年度予算額: 2.4 百万円)により、国内エコパークの実務者ワークショップを開催しました(計7回)。定期報告や国内外の取組事例を共有し、国際的な動向を踏まえた管理運営を推進しました。

日本エコパークネットワーク(JBRN)

令和7(2025)年7月22日に都内にて「日本ユネスコエコパークネットワーク2025大会」が開催されました。会場には全国10地域のユネスコエコパークの責任者・担当者、日本ユネスコ国内委員会、エコパーク支援団体・有識者・ユースなど全国のエコパーク関係者50名余りが参加しました。ユネスコエコパークをめぐる最近の動向等について、MAB計画分科会の朱宮委員、松田委員、渡邊主査他から情報発信がありました。役員の改選が行われ、大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク協議会会長が新たに会長に就任しました。

ユネスコ認定地域における持続可能な発展に向けた世代間学習促進プログラムに関するユネスコチェア

令和7(2025)年3月24日～26日に金沢大学および白山市にて「ユネスコエコパークおよび世界ジオパークに関する国際大学連携シンポジウム」が開催され、フランス、ドイツ、フィンランド、インド、トルコ、フィリピン、日本の7か国からユネスコ代表者、エコパーク研究者や教育関係者37名が参加しました。シンポジウム後、参加者は白山市役所を訪問し、白山ユネスコエコパークおよび白山手取川ユネスコ世界ジオパークについて学びました。また、白峰地区に2日間滞在し、地域社会の持続可能な取り組みを視察するとともに、ESDに関して交流が行いました。

(詳細: 外部リンク <https://unescochair.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/news-2261/>)

エコパークを活用した持続可能な社会のための教育に関するユネスコチェア

令和4(2022)年4月に横浜国立大学により設立された本ユネスコチェアでは、持続可能な社会の実現に向けて、エコパークにおける持続可能な開発のための教育(ESD)に関する研究、研修、情報、資料の統合システムを推進するとともに、日本国内及びアジア・太平洋地域や世界の他の地域における、国際的に著名な研究者や教員による共同研究を促進することとしています。2024年9月に只見エコパーク海外交流特別セミナー講演、10月から大学院生がユネスコ本部に長期インターン派遣、11月に“Blue Carbon Mangrove Ecosystems”をSpringerから出版、12月に上勝MAB勉強会講演、2025年2月に外部助言委員会開催、真鶴町にてユネスコエコパークの可能性について講演しました。(詳細:外部リンク <https://ebross.ynu.ac.jp/>)

信州ESDコンソーシアム

本コンソーシアムは、平成29(2017)年に設立された信州大学教育学部に事務所を置く組織で、近年はエコパークを中心とした学校におけるESDの普及推進に取り組んでいます。令和7(2025)年2月2日、3日には、信州大学教育学部において「信州ESD/SDGs成果発表&交流会～ユネスコエコパークと共に学ぼう～」(主催:信州ESDコンソーシアム、共催:公益財団法人イオン環境財団、信州大学)がオンラインで開催されました。今回の成果発表&交流会には、ESDの学習成果について31件の発表があり、交流を深めました。ユネスコエコパークからは、三か所のサイトより参加があり、エコパークにおける地域資源を活用した学習成果が発表されました。また、昨年度に引き続き今年度も国際交流枠を設け、通訳を介してカンボジアの学校と交流するなど、国際発信にも努めました。当日の発表等の詳細については、特設ホームページにまとめられています。

(詳細:外部リンク <https://esd-nagano.org/conference/introduction/2024/>)

日本MAB計画連携大学間ネットワーク(JU-MAB)

2025年2月21日から24日にかけて、金沢大学とJU-MAB連携大学による「SDGs世代間学習プログラム2024(冬)」が開催され、全国6大学から計12名の学生が参加しました。白山ユネスコエコパークおよび白山手取川世界ジオパーク認定地域である白山市白峰を訪問し、雪深い奥山地域での暮らしや自然・文化を体験しながら、世代間交流とグループワークを通じて持続可能な地域づくりについて学びました。本プログラムでは「白山エコパークユースネットワーク」が設立され、今後の地域貢献活動や国際連携に向けた一歩が踏み出されました。

(詳細:外部リンク <https://jumab.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/news-482/>)。

国際生物圏保存地域の日(11月3日)

ユネスコエコパークの国際的な更なる推進を期待し、令和3(2021)年の第41回ユネスコ総会で、11月3日を「国際生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)の日」とすることが決定されました。これを記念し、国内のユネスコエコパークにて以下のとおりイベントが実施されました。

○白山：【国際ユネスコエコパークの日記念企画】地域づくり交流会 2024×郡上

○祖母・傾・大崩：第2回 Clean 活動デーin 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

こども霞が関見学デー

令和6(2024)年8月7日・8日および令和7(2025)年8月6日・7日に開催されたこども霞が関見学デーにおいて、日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)が「エコパークを楽しもう」と題したプログラムにて、全国のエコパークから持ち込んだ「森のかげら」を紙やすりで磨いて、自分だけの「森のかげらストラップ」づくりを行いました。

各エコパークにおける取組

【只見エコパーク】

○只見こども藝術計画「ブナの森の大きな地図 小さな地図」(令和6(2024)年11月10、17日)

福島県立博物館との共催で、アーティストを講師に、町内のブナ林にて子どもたちを対象としたアートワークショップを開催しました。また、子どもたちが作った作品を只見駅にて展示しています。

○「自然首都・只見」伝承産品ブランド化事業

只見町は、エコパーク関連事業として、只見エコパーク内の天然資源・農産物や伝統技術を使用した産品を『自然首都・只見』伝承産品として認証し、ブランド化を進めました。現在、36品があり、只見町内の22事業者が関わっています。

○只見町ブナセンターの活動

只見町のエコパーク推進組織である只見町ブナセンターでは、「ただみ・ブナと川のミュージアム」(自然史博物館)、「ふるさと館田子倉」(ダム湖水没集落の民俗資料館)を管理・運営し、公開しています。令和5(2023)年度、ミュージアムでは、3回の企画展(雪国のブナ、トンボ、食)を開催したほか、講座や観察会を開催しました。

○只見ユネスコエコパーク登録10周年記念式典(令和6(2024)年10月27日)

ユネスコエコパーク登録10周年を記念した映画上映会および記念式典を開催しました。

○ネイチャーポジティブ宣言(令和6(2024)年10月27日)

○ネイチャーポジティブ自治体認証取得(令和7(2025)年4月1日)

【みなかみエコパーク】

○エコパーク普及啓発活動

みなかみエコパークの認知度向上を目指し、イオンモール太田店や高崎店、また、群馬県内イベントでパネル展示やネイチャーラフト体験を実施。来場者に地域の自然や環境保全の重要性を伝え、多くの人々に自然とのふれあいや地域の魅力を再認識していただきました。

○環境学習の取組

地元小学生が地域の自然や文化を学ぶ環境学習を進め、成果を発表する環境学習発表会を開催。

また、谷川岳エコツーリズム推進協議会等と連携し、自然散策等環境学習を実施。みなかみエコパークの自然や持続可能な社会づくりの重要性を共有する機会を創出しました。

○自然環境保全の取組

みなかみユネスコエコパーク科学委員会では、みなかみネイチャーポジティブプロジェクトと連携し、自然林復元や里地里山の保全、在来種調査などを進めています。また、令和6年6月には「みなかみ町ネイチャーポジティブ宣言」を行い、持続可能な地域づくりのさらなる推進を表明しました。

【志賀高原エコパーク】

○エコパーク普及啓発活動（令和6(2024)年10月26日～27日）

群馬県ビエント高崎で開催されたぐんま山フェスタにブース出展し、パネル展示や観光案内を行いステージイベントで志賀高原エコパークについて紹介しました。

○構成町村合同ワークショップ(気候変動対策と農業)の開催（令和7(2025)年3月25日）

構成5町村合同で気候変動と農業に関するワークショップを開催しました。長野県と群馬県の2会場をオンラインで繋ぎ、両県の専門家による講演を行い、エリア内で従事する農業関係者や気候変動問題に関心のある一般町村民、役場の気候変動対策及び農業振興担当部署の職員など合わせて35名が参加しました。各会場では、家庭・宿泊施設の厨芥から製造される有機堆肥や剪定枝をバイオ炭に加工する無煙炭化器などが展示されました。

【甲武信エコパーク】

○デジタルスタンプラリーの開催（令和6(2024)年8月30日～12月1日）

登録5周年記念事業として、エリア内の自然や文化の名所を巡るデジタルスタンプラリーを開催しました。ユネスコエコパークの魅力を広く紹介し、理解促進を図りました。

○研修会の開催（令和6(2024)年12月19日）

構成市町村の担当職員を対象に、甲武信エコパークインフォメーションセンターの取組紹介、森林セラピーの体験、文化財の見学を通じて、自然環境の保全と持続可能な利活用への理解を深める研修会を開催しました。

【白山エコパーク】

○海外ユネスコ国内委員会職員の視察受け入れ（令和6(2024)年7月9日～11日）

文部科学省のプログラムの一環として、韓国、インドネシア、バングラデシュのユネスコ国内委員会職員3名が白山地域を訪問されました。白山エコパークと白山手取川ユネスコ世界ジオパークの重複地域では、草木染め体験や民俗資料館見学、高原散策などを通して、日本の自然と文化を体験していただきました。その後、ユネスコクラフト創造都市である金沢市、そしてエコパークと世界文化遺産の両方に登録されている南砺市五箇山合掌造り集落を視察しました。

(詳細:外部リンク <https://hakusan->

[br.jp/2024/08/02/%e6%b5%b7%e5%a4%96%e3%82%88%e3%82%8a%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3](https://hakusan-br.jp/2024/08/02/%e6%b5%b7%e5%a4%96%e3%82%88%e3%82%8a%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3)

<https://www.hakusan-br.jp/2024/08/15/%e5%b1%b1%e3%81%ae%e6%97%a5%e8%a8%98%e5%bf%b5%e4%bc%81%e7%94%bb%e3%80%8c%e7%9c%8c%e6%b0%91%e7%99%bd%e5%b1%b1%e8%ac%9b%e5%ba%a7%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97%e3%81%9f/>



○県民白山講座「白山の自然・文化を知る」（令和 6 (2024) 年 8 月 11 日）

山の日に合わせ、石川県白山自然保護センターと白山ユネスコエコパーク協議会の共催で「県民白山講座」を開催しました。講座では、2 名の講師が、ユネスコエコパークとユネスコ世界ジオパークの繋がりや、白山に暮らす特徴ある昆虫についてお話ししました。参加者からの質問に答えながら進めるトークセッションも行われました。

（詳細：外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2024/08/15/%e5%b1%b1%e3%81%ae%e6%97%a5%e8%a8%98%e5%bf%b5%e4%bc%81%e7%94%bb%e3%80%8c%e7%9c%8c%e6%b0%91%e7%99%bd%e5%b1%b1%e8%ac%9b%e5%ba%a7%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97%e3%81%9f/)

[br.jp/2024/08/15/%e5%b1%b1%e3%81%ae%e6%97%a5%e8%a8%98%e5%bf%b5%e4%bc%81%e7%94%bb%e3%80%8c%e7%9c%8c%e6%b0%91%e7%99%bd%e5%b1%b1%e8%ac%9b%e5%ba%a7%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97%e3%81%9f/](https://hakusan-br.jp/2024/08/15/%e5%b1%b1%e3%81%ae%e6%97%a5%e8%a8%98%e5%bf%b5%e4%bc%81%e7%94%bb%e3%80%8c%e7%9c%8c%e6%b0%91%e7%99%bd%e5%b1%b1%e8%ac%9b%e5%ba%a7%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97%e3%81%9f/)）



○第2回白山エコパークリレーシンポジウム in 勝山（令和 6 (2024) 年 8 月 18 日）

白山エコパークエリア 7 市村を巡るリレーシンポジウムの第 4 回を勝山市で開催しました。今回は「気候変動」をテーマにトークショーを実施。地球温暖化が私たちの身近な生活に与える影響について、専門家が解説し、参加者との活発な質疑応答が行われました。ブレイクタイムには、地元の美味しいパンを味わいながら参加者同士の交流を深めました。

（詳細：外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2024/08/26/%e7%ac%ac%e5%9b%9e%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e3%83%bb%e3%83%aa%e3%83%a)

[br.jp/2024/08/26/%e7%ac%ac%e5%9b%9e%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e3%83%bb%e3%83%aa%e3%83%a](https://hakusan-br.jp/2024/08/26/%e7%ac%ac%e5%9b%9e%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e3%83%bb%e3%83%aa%e3%83%a)

[c%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%b3%e3%83%9d%e3%82%b8-2/](#)



○外来植物(オオバコ等)の除去作業(令和6(2024)年9月7日～8日)

南竜ヶ馬場(標高2,100m付近)にて外来植物(オオバコ等)の除去作業を実施しました。石川県白山自然保護センターと環白山保護利用管理協会の主催、当協議会の後援により、29名のボランティアが参加しました。花の名山として知られる白山の高山植物を保全するため、20年にわたる継続的な活動が続け、オオバコは大幅に減少しました。

(詳細:外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2024/09/18/%e4%bb%a4%e5%92%8c%ef%bc%96%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e3%80%8c%e3%82%aa%e3%82%aa%e3%83%90%e3%82%b3%e7%ad%89%e9%99%a4%e5%8e%bb%e5%8d%97%e7%ab%9c%e3%83%b6%e9%a6%ac%e5%a0%b4%e3%80%8d%e3%81%8c%e5%ae%9f%e6%96%bd/)

[br.jp/2024/09/18/%e4%bb%a4%e5%92%8c%ef%bc%96%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e3%80%8c%e3%82%aa%e3%82%aa%e3%83%90%e3%82%b3%e7%ad%89%e9%99%a4%e5%8e%bb%e5%8d%97%e7%ab%9c%e3%83%b6%e9%a6%ac%e5%a0%b4%e3%80%8d%e3%81%8c%e5%ae%9f%e6%96%bd/](https://hakusan-br.jp/2024/09/18/%e4%bb%a4%e5%92%8c%ef%bc%96%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e3%80%8c%e3%82%aa%e3%82%aa%e3%83%90%e3%82%b3%e7%ad%89%e9%99%a4%e5%8e%bb%e5%8d%97%e7%ab%9c%e3%83%b6%e9%a6%ac%e5%a0%b4%e3%80%8d%e3%81%8c%e5%ae%9f%e6%96%bd/))



○郡上市立白鳥中学校 白山研修(令和6(2024)年9月26日～27日)

郡上市立白鳥中学校の2年生90名が白山市にて白山研修を実施しました。研修では、白山国立公園やユネスコエコパークに関する学習に加え、地元商店へのインタビューやトレッキング、獣害・ジビエ活用についての講義、外来植物の除去作業など、多岐にわたるプログラムを体験しました。

(詳細:外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2024/10/02/%e9%83%a1%e4%b8%8a%e5%b8%82%e7%ab%8b%e7%99%bd%e9%b3%a5%e4%b8%ad%e5%ad%a6%e6%a0%a12%e5%b9%b4%e7%94%9f%e3%81%8c%e3%80%81%e7%99%bd%e5%b1%b1%e7%a0%94%e4)

[br.jp/2024/10/02/%e9%83%a1%e4%b8%8a%e5%b8%82%e7%ab%8b%e7%99%bd%e9%b3%a5%e4%b8%ad%e5%ad%a6%e6%a0%a12%e5%b9%b4%e7%94%9f%e3%81%8c%e3%80%81%e7%99%bd%e5%b1%b1%e7%a0%94%e4](https://hakusan-br.jp/2024/10/02/%e9%83%a1%e4%b8%8a%e5%b8%82%e7%ab%8b%e7%99%bd%e9%b3%a5%e4%b8%ad%e5%ad%a6%e6%a0%a12%e5%b9%b4%e7%94%9f%e3%81%8c%e3%80%81%e7%99%bd%e5%b1%b1%e7%a0%94%e4)

[%bf%ae%e3%81%a7%e7%99%bd%e5%b1%b1%e5%b8%82%e3%81%ab/\)](#)



○地域づくり交流会 2024×郡上（国際BRの日 11/3 記念イベント）（令和 6（2024）年 11 月 8 日）

「Ork ひるがの」にて「地域づくり交流会 2024×郡上」を開催し、エリア内外から約 32 名が参加しました。ジビエ活用に関する講話、植生観察、クラフト体験などを実施し、環白山地域に住む人々が交流を図りました。

（詳細：外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2024/11/14/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%A6%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%83%91%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%81%AE%E6%97%A5%E3%80%9011-3%E3%80%91%E8%A8%98%E5%BF%B5%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88-2/)

[br.jp/2024/11/14/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%A6%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%83%91%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%81%AE%E6%97%A5%E3%80%9011-3%E3%80%91%E8%A8%98%E5%BF%B5%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88-2/\)](https://hakusan-br.jp/2024/11/14/%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%A6%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%83%91%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%81%AE%E6%97%A5%E3%80%9011-3%E3%80%91%E8%A8%98%E5%BF%B5%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88-2/)



○定期報告書作成に向けた学習会（令和 6（2024）年 11 月 20 日～21 日）

白山ユネスコエコパークの構成団体は、岐阜県郡上市にて「定期報告書作成に向けた学習会」を開催しました。学習会では、まず講師からこれまでの取り組みについて話題提供があり、参加者全員で共通理解を深めました。その後、グループワーク形式で今後の活動について活発な議論を交わしました。

（詳細：外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2024/11/26/%e3%80%8c%e5%ae%9a%e6%9c%9f%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8%e4%bd%9c%e6%88%90%e3%81%ab%e5%90%91%e3%81%91%e3%81%9f%e5%ad%a6%e7%bf%92%e4%bc%9a%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97/)

[br.jp/2024/11/26/%e3%80%8c%e5%ae%9a%e6%9c%9f%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8%e4%bd%9c%e6%88%90%e3%81%ab%e5%90%91%e3%81%91%e3%81%9f%e5%ad%a6%e7%bf%92%e4%bc%9a%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97/\)](https://hakusan-br.jp/2024/11/26/%e3%80%8c%e5%ae%9a%e6%9c%9f%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8%e4%bd%9c%e6%88%90%e3%81%ab%e5%90%91%e3%81%91%e3%81%9f%e5%ad%a6%e7%bf%92%e4%bc%9a%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%97/)



○第5回 白山エコパーク・リレーシンポジウム in 南砺(令和7(2025)年3月7日)

世界遺産とユネスコエコパークの両方に登録されている南砺市五箇山地域で、リレーシンポジウムを開催しました。講演では、富山大学の奥敬一教授が登壇し、五箇山地域の学生の活動や「TOGA 森の大学校」の取り組みを紹介。ワークショップでは五箇山和紙の製作を体験し、伝統文化に触れました。

(詳細:外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2025/03/11/%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e3%83%bb%e3%83%aa%e3%83%ac%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%b3%e3%83%9d%e3%82%b8%e3%82%a6%e3%83%a0in-2/)

[br.jp/2025/03/11/%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e3%83%bb%e3%83%aa%e3%83%ac%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%b3%e3%83%9d%e3%82%b8%e3%82%a6%e3%83%a0in-2/](https://hakusan-br.jp/2025/03/11/%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e3%83%bb%e3%83%aa%e3%83%ac%e3%83%bc%e3%82%b7%e3%83%b3%e3%83%9d%e3%82%b8%e3%82%a6%e3%83%a0in-2/))



○県民白山講座「白山の自然・文化を知る」(令和7(2025)年8月2日)

白山ユネスコエコパーク協議会と石川県白山自然保護センターは、「県民白山講座」を共催しました。紙芝居「白山麓の鳥越に伝わる民話・伝説」を通じて、地域の歴史と文化を紹介。また、映画「白山シンフォニー」を上映し、白山の豊かな自然や文化、人々の暮らしの魅力を伝えました。上映前には、監督や出演者による舞台挨拶も行われました。



○第6回白山エコパーク・リレーシンポジウム in 高山（令和7(2025)年8月24日）

高山市荘川地域にて、リレーシンポジウムを開催しました。「荘川町伝統食『どぶ汁』を残そう!!」と題した講演後、郷土料理の継承活動を行う「荘川べっぴん桜」の皆さんと地元中学生ボランティアが作った郷土料理「どぶ汁」と「荘川けいちゃん」の試食会を実施。参加者は、家庭で味わう機会が減った「どぶ汁」を堪能し、地域の食文化と次世代への継承の重要性について理解を深めました。



○NEXCO 中日本北陸自動車道開通 50 周年記念イベントブース出展(尼崎SA)（令和5(2023)年10月21日）

白山手取川ジオパーク推進協議会と連携し、ポスター展示やステージで白山エコパークを紹介しました。

○地域づくり交流会 2023(国際BRの日 11/3 記念イベント)（令和5(2023)年11月7日）

福井県大野市下打波集落にて地域づくり交流会 2023 を開催し、エリア内外から約 30 名が参加しました。トチ餅づくりやトチの群生観察等を行い、環白山地域に住む人々が交流を図りました。

○第3回白山エコパークリレーシンポジウム in 白川村（令和6(2024)年3月4日）

第3回白山エコパークリレーシンポジウムを白川村で開催し、22 名が参加しました。白川村は、全域がエコパーク、また荻町地区は五箇山とともに世界文化遺産「白川郷の合掌造り集落」に登録されている地域であり、合掌造り集落を散策し、トヨタ白川郷自然学校にて座談会を行いました。

【南アルプスエコパーク】

○エコパーク登録 10 周年記念事業の開催

令和6年6月12日をもって登録10周年を迎える南アルプスエコパークの記念事業を実施。太鼓の披露や有識者による講演など興味深いイベントを盛り込み、これまでの10年間での歩みを振り返るとともに、今後を見据えて取り組むべきことがらについて考えを馳せました。ユネスコエコパークの認知度は未だに高くないという課題があるため、地域住民の認知度向上や構成市町村を中心とした地域間の交流を深めるためにも、節目の年にこのような事業を実施することはよい契機となりました。

○ライチョウ勉強会(オンライン開催) (令和6(2024)年12月14日・15日)

令和6年度については、南アルプスユネスコエコパーク10周年記念大会実行委員会主催の「南アルプスユネスコエコパーク10周年記念大会～未来につなげ！ライチョウの生きる山々、南アルプス～」の中で、専門家によるライチョウに関する講演会をはじめ、登録10周年を記念する各種ブースを盛り込んだ本大会にライチョウサポーターを呼び込んだ。より身近にライチョウやユネスコエコパークを実感できる当大会をもってフォローアップ研修会としたが、来場できなかったサポーターへ対しても、講演の様子をYouTubeで公開しました。2日間の日程で延べ917人を動員し、多くの人へ周知啓発を図ることができました。

○南アルプスユネスコエコパークミュージアム(M:I)のオープン(令和7(2025)年7月12日)

令和7年7月12日、静岡県井川地区「南アルプスの自然保護」「地域資源の活用」「井川地域の振興」を柱に、南アルプスの壮大な自然を体感できるシアターや、井川の歴史・文化を紹介する展示を通じて、ユネスコエコパークの理念を伝えていく施設をオープンしました。またこの施設は、研究発表、特別展、学習イベントなどを通じ、訪れる人々に新たな学びと発見の機会を提供する場でもあります。

旧静岡市立井川小学校の施設を再活用して開館し、「南アルプス」と「井川」の頭文字から「M:I(エムアイ)」と名付けました。この愛称には、M(未来へ)I(一步步)自然と文化を守り継ぐ願いが込められています。各種展示に加え、館内にはレストランも併設されており、家族で一日中楽しめる施設です。その他、南アルプスでのトレッキング、E-BIKE ツアー、ガストロノミー体験など、南アルプス地域の魅力を体感できるコンテンツも準備中であり、今後の展開にも注目されます。この拠点を活用し、これからも南アルプスユネスコエコパークの魅力やポテンシャルを存分にPRしていこうと、オープン初日には盛大なセレモニーが行なわれました。

【大台ヶ原・大峯山・大杉谷エコパーク】

○教職員向け現地エクスカージョンの開催 (令和6(2024)年8月5日)

エコパークを活用した学校教育、ESD推進を図るため、構成自治体の小中学校で地域教育について考える機会を作り、今後、教育カリキュラム内でエコパークの内容を取り入れるため、教職員を対象とした現地エクスカージョンを奈良県天川村で実施しました。

【祖母・傾・大崩エコパーク】

○高校生夏休み学習・研究プログラムの実施(令和6年(2025)年8月5日～6日)

ユネスコスクールとの連携強化を目的とし、エコパークエリア内に立地するユネスコスクール認定高校の自然科学部を対象に、自然環境や特徴を学ぶ1泊2日のフィールドワークを実施しました。植生の専門家等を講師に招き、顧問を含む12名の参加者がユネスコエコパークや絶滅危惧種、地域植生等に関する見識を深めることができました。



○6市町交流キャンプの開催(令和6((2024)年8月7日～8日)

エコパークの将来を担う次世代の育成を目的に、エコパーク構成自治体の小学生を対象とした交流キャンプを開催し、18名の児童が参加しました。エコパークに登録された豊かな自然の中で、児童が主体となって活動し交流を深めるとともに、エリア内の自然や伝統に触れ、環境保全への関心を高めながら郷土への愛着を深めることができました。

○地域全体で取り組む環境保全活動の実施(令和6(2024)年11月3日)

エリア内の住民にエコパークの現状を知っていただき、環境保全意識の向上を図るため、国際ユネスコエコパークの日に合わせて、「Clean活動デーin 祖母・傾・大崩エコパーク」と題してエコパーク構成自治体で一斉にゴミ拾い活動を実施しました。4市2町で135名に参加いただき、参加者には記念品を贈呈することにより、清掃活動を通じた情報発信と地域住民主体の自然保全活動の推進につながりました。



○エコパークフェアの開催(令和7(2025)年2月8日～9日)

エコパークの認知度の向上を図るため、福岡市郊外のイオンモール福岡においてエコパークフェアを(公財)イオン環境財団と共催し、パンフレットやポスター、動画の展示による情報発信のほか、ワークショップ等のネイチャークラフト体験を提供しました。



○住民活動団体情報交換会の開催（令和7(2025)年3月18日）

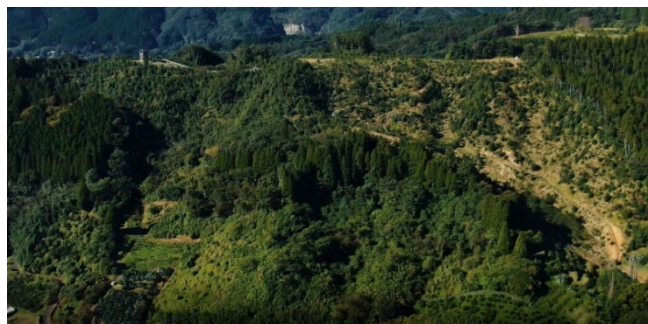
地域の住民団体等が取組を共有し、交流を生むことによる更なる発展を図るため、情報交換会を開催しました。次世代にエコパークの理念を伝えるため、普段の活動の中から抽出した課題や今後の取組について意見交換を行いました。



【綾エコパーク】

○綾町イオンと割付地区の日向夏畑 自然共生サイトへ認定（令和6(2024)年10月21日）

綾町内に位置する綾町イオンの森とその周辺に広がる割付地区の日向夏みかん畑約30haが、「自然共生サイト」として、環境省の認定を受けました。綾エコパーク内の自然共生サイト認定地である東洋紡 綾の森(135ha)、綾町イオンの森と割付地区の日向夏畑(30ha)の2か所は、いずれも令和7(2025)年8月までにそれぞれ国際データベース OECM(Other Effective area-based Conservation Measures、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)にも登録済みです。



綾町イオンの森と割付地区の日向夏畑

○霧島ジオパーク・綾エコパーク合同イベント 霧島ジオ散歩(令和6(2024)年11月10日)

令和5(2023)年、隣接する霧島ジオパークのエリア拡張により、綾エコパークと重なるエリアができたことから、霧島ジオパーク事務局および該当エリアの構成自治体と綾エコパーク事務局とで合同イベントを行っています。令和6(2024)年は、霧島ジオパーク側の綾エコパークと重なるエリア付

近において、ジオ(地形地質)・エコ(生態系)のそれぞれの視点から専門家のガイドによる解説付きのツアー「霧島ジオ散歩」を開催し、親子連れを含む約 20 名の方を案内しました。



霧島ジオ散歩

○綾町イオンの森 育樹活動（令和 6(2024)年 11 月 23 日）

地元の中学校建設伐採跡地に平成 25(2013)年からイオン環境財団と植樹活動が続けてきており、令和 6(2024)年は、育った森において「枝打ち作業」や「下草刈り作業」を実施したほか、地元伝統工芸のワークショップを開催しました。



綾町イオンの森 育樹祭

【屋久島・口永良部島エコパーク】

○エコパークの広報活動(令和7年(2025)年2月 15 日～16 日)

千葉県習志野市にありますイオン津田沼店におきまして、鹿児島フェア内で屋久島・口永良部島エコパークの広報を行いました。ポスター展示やワークショップ(スギ材ストラップ作成)を行い、ワークショップについては2日間合計で 200 人の来場者に体験していただきました。

○屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク地域推進協議会開催(令和7年(2025)年7月8日)

屋久島町内において、令和7年度第1回屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク地域推進協議会を開催しました。本会議では、有識者や関係行政機関に参加していただき、定期報告作成について話し合いました。今秋に第2回を開催予定としています。

○口永良部島関係者による意見交換会の実施(令和7年(2025)年8月 21 日)

屋久島と同じく島全体がユネスコエコパークに認定されている口永良部島について、島の代表者や有識者を交えた意見交換会を実施しました。会の中では、口永良部島における活動や取組の方向性や来島者を増やしていくにどうすれば良いか等、近いところから遠い未来の話について意見交換を行うことが出来ました。

各エコパークにおける学術的な活動等

【只見エコパーク】

○「自然首都・只見」学術調査助成金事業

只見町は、自然環境、生物多様性、民俗、文化等の町内に存在する事業に関する調査研究を行う研究者に助成を行いました(公募型の学術調査研究支援、平成 24(2012)年度からの継続事業)。令和6(2024)年度は、6件について採択・助成を行いました。2月上旬に成果発表会を開催しました。

○在来イワナ分布調査

かつての放流事業により生息域が縮小し、絶滅が危惧される在来イワナのニッコウイワナについて、その個体群や生息環境を保護・保全する目的で、生息河川の特定調査を実施しています。

○国道 289 号八十里越の開設・開通に係る調査

只見エコパークの北西部、緩衝地域を貫く国道 289 号八十里越について、エコパークの理念・目的を実現する中での開設・開通になるよう建設主体である福島県南会津建設事務所(只見エコパーク 推進協議会構成員)等に協力を求めています。只見町は建設事務所が行う自主アセス調査を補完するため、只見エコパーク支援委員会委員の協力を得ながら独自調査(イヌワシ・クマタカ大型猛禽類調査、希少両生類の道路横断調査)を実施しています。調査結果は、建設事務所と共有し、対策について検討するものです。

【志賀高原エコパーク】

○信州大学教育学部との連携事業

志賀高原エコパークでは、構成町村である長野県山ノ内町と信州大学教育学部との包括連携協定に基づいて、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設がエリア内の自然環境に関する学術的な調査研究や管理運営に関する専門的な支援、教育機関へのESDの普及等を実施しています。研究内容は野生動物モニタリング調査、在来種の保全・保護基礎調査、森林生態系モニタリング等で、成果の一部は「信州大学教育学部志賀自然教育施設研究報告に論文等として掲載されており、このうち令和6(2024)年の関連論文は2件でした。

【甲武信エコパーク】

○ニホンジカ広域保護管理

協議会の構成団体等が取り組むシカ対策の実効性をより高め、甲武信エコパークエリア内のニホンジカ

力の適正な管理を推進するため、第2期甲武信エコパークニホンジカ広域保護管理指針に基づく事業調査を実施し、令和5(2023)年度の捕獲実績や実施事業について情報を共有しました。

【白山エコパーク】

○大学教育への貢献（令和6(2024)年7月5日）

金沢大学/JU-MAB 連携大学の SDGs 世代間学習プログラムに参加する5大学11名の学生が白山市役所を訪問し、意見交換を行いました。学生たちはその後、白山市白峰地区で「出作り」体験や住民との交流を行い、白山の暮らしと保全活動について理解を深めました。

(詳細:外部リンク <https://hakusan-br.jp/2024/08/02/%e9%87%91%e6%b2%a2%e5%a4%a7%e5%ad%a6%e3%80%80sdgs%e4%b8%96%e4%bb%a3%e9%96%93%e5%ad%a6%e7%b1%92%e3%83%97%e3%83%ad%e3%82%b0%e3%83%a9%e3%83%a0%e3%81%ab%e5%8f%82/>)



○大学教育への貢献（令和7月(2024)年8月1日～7日）

筑波大学の大学院生4名が「世界遺産演習」で来訪。集落に滞在しながら、白山の保全活動、伝統文化について学びました。エコパーク事務局からも全員が参画してエコパークとジオパークの活動を紹介するなど演習に協力し、交流を深めました。



○学術部会の開催（令和6(2024)年4月16日）

白山エコパーク協議会では、諮問組織として地域内外の学識者9名による学術部会を設置し、定期的に会議を開催しています。直近の会議では、管理運営計画に沿ったこの1年間の目標達成状況について、評価や改善に向けた議論が行われました。

○白山エコパーク協議会学術研究報告会の開催（令和7(2025)年5月21日）

白山エコパーク協議会ではエリア内の自然環境の保護や保全、地域の文化を守る研究等に対して、学術研究助成を行っており、協議会に合わせて開催した報告会では、3件の研究成果の報告がありました。

（詳細：外部リンク [https://hakusan-](https://hakusan-br.jp/2025/05/28/%e7%ac%ac14%e5%9b%9e%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e5%8d%94%e8%ad%b0%e4%bc%9a%e7%b7%8f%e4%bc%9a%e3%81%8a%e3%82%88%e3%81%b3/)

[br.jp/2025/05/28/%e7%ac%ac14%e5%9b%9e%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e5%8d%94%e8%ad%b0%e4%bc%9a%e7%b7%8f%e4%bc%9a%e3%81%8a%e3%82%88%e3%81%b3/](https://hakusan-br.jp/2025/05/28/%e7%ac%ac14%e5%9b%9e%e7%99%bd%e5%b1%b1%e3%83%a6%e3%83%8d%e3%82%b9%e3%82%b3%e3%82%a8%e3%82%b3%e3%83%91%e3%83%bc%e3%82%af%e5%8d%94%e8%ad%b0%e4%bc%9a%e7%b7%8f%e4%bc%9a%e3%81%8a%e3%82%88%e3%81%b3/))



【南アルプスエコパーク】

○南アルプスユネスコエコパーク科学委員会の実施（令和6(2024)年12月4日）

生物学や地政学に見識をもつ有識者による学術会議を定期的実施。この回では、ユネスコエコパークの登録更新のための定期報告書に関する事項につき意見交換が行われました。これらの意見を集約し、南アルプスエコパークは令和6年度に定期報告書をまとめ、ユネスコへの提出を完了しています。

○ニホンジカ対策ワーキンググループ会議の開催（令和7(20245)年1月21日）

ワーキンググループ会議を対面で開催し、捕獲を強化していく必要があるとの考えから、「捕獲」をテーマとしました。自然環境研究センター、静岡県自然保護課の2団体における捕獲事例をまとめた報告を受け、今後の捕獲計画のあり方について議論を行いました。

【祖母・傾・大崩エコパーク】

○緩衝・移行地域自然環境調査助成事業

緩衝・移行地域内の生物多様性の高い地域における調査研究の促進や、自然環境保護の気運の醸成と自然環境に精通した人材の育成を図ることを目的に、調査研究への助成を行いました。令和6(2024)年度は移行地域内の昆虫類、植物相、ニホンカモシカ、鳥類、陸生貝類、クモ類、両生類、きのこ相の分布・生息調査等に対して5件の助成を実施しました。

【綾エコパーク】

○イオン SATOYAMA フォーラムへの参加（令和7(2025)年2月18日）

国連大学で行われたイオン環境財団主催のイオン SATOYAMA フォーラムに参加し、綾エコパークの自然と共生をめざす森づくりについて発表したほか、京都大学、国連大学、千葉大学、東京大学、東北大学、早稲田大学などの SATOYAMA に関わる研究者と共に、新しい SATOYAMA づくりに関する意見交換を行いました。現地・オンラインを含めて約 500 人の参加がありました。



SATOYAMA フォーラム

○大学連携事業年次報告会の開催(令和 7(2025)年3月 11 日)

地元大学との連携の下に実施された調査研究について、令和6(2024)年度の成果報告会を行いました。宮崎大学3件、南九州大学2件の計5件。



大学連携事業年次報告会

【屋久島・口永良部島エコパーク】

○屋久島学ソサエティ大会の開催 (令和6(2024)年 12 月 14 日～15 日)

「第 12 回屋久島学ソサエティ大会」を屋久島学ソサエティ主催、屋久島町共催、屋久島環境文化村財団・京都大学野生動物研究センター後援で、屋久島町役場にてオンラインを併用する形で開催しました。2日にわたり、2つのテーマセッションや、屋久島高校環境コース研究発表(5題)、一般口頭発表(129題)及びポスター発表を実施しました。